



# 営農ウィークリーNEWS

## 「京おくら」を知ろう！収穫体験イベント



9月9日、京おくら生産振興協議会（生産者、行政機関、中央会、全農京都、JAで構成）主催による「京おくら」の収穫体験イベントが羽束師支店管内の「京おくら」栽培ほ場で、消費者を対象に開かれました。

イベントは、「京おくら」の栽培から販売までにおける情報や生産地の想いなどを一般消費者に認知いただく



ことと共に地元京都府産「京おくら」の魅力を伝え、消費拡大を図ることを目的に行われました。

当日は、一般公募により11人の参加があり、JAから「京おくら」栽培の報告が行われ、生産者の黒川尚輝さんより、収穫方法の指導を受けて、実際に収穫を体験されました。



また、地域振興の事業連携に取り組む京都光華女子大学短期大学部ライフデザイン学科の学生も参加し、「京おくら」の栽培を学んだほか、収穫体験も行われました。

当日、イベントの参加者からは、「京おくら」の花もとてもきれい。自宅に帰り収穫した新鮮な「京おくら」早く味わいたい。」などと話され、盛会に終わりました。

### —TAC information—

## 酒造用原料米「京の輝き」生育良好！



9月2日、経済部営農販売課では、京都市の最北端地域となる左京区久多地域で出穂期を迎える京都限定の酒造用原料米「京の輝き」栽培ほ場で生育調査を行いました。

今年は、昨年に続き、異常気象ですが、生産者の懸命な肥培管理作業などにより、順調に生育しており、収量・品質ともに期待されます。



## ～9月に接近する台風に備える技術対策 農業技術情報～

接近する台風によって京都府も大雨・強風となる可能性があります。気象情報に注意して警戒するとともに、以下を参考にして十分な対策を講じてください。但し、人命第一の観点から、台風通過中や雷鳴が聞こえる間は絶対に作業を行わず、通過後も気象情報を確認した上でほ場周辺の安全に十分注意し、状況が治まってからの事後対策作業をお願いします。

### ◎水稲（1）通過前

① 既に刈取適期になっているものは、速やかに刈り取る。

#### （2）通過後

① 滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努める。

② 成熟期に達し、倒伏した稲はできるだけ早く刈り取り、品質低下の防止に努める。特に、「キヌヒカリ」、「京の輝き」、「祝」などの穂発芽しやすい品種を優先して刈り取る。

③ 収穫までに日数がある場合は、無理に起こすとさらに被害を大きくする恐れがあるため、穂を茎葉の上に乘せる。株際をみて、折損していないようであれば、5～6株ずつ緩く束ねて立て寄せてもよい。

### ◎野菜・花き（1）通過前

① 明きょや排水路の点検・整備など、排水対策をしっかりと行っておく。

② パイプハウスは概ね30m/s以上の風速で大きな被害が発生する。ハウス栽培については、ハウス内に風が吹き込まないように、被覆資材の破損部を補強し、しっかりと閉め切る。また、資材固定金具やハウスバンドが緩んでいないか点検して締め直し、サイドが風であおられないよう固定する。また、風に飛ばされたものがハウスに当たって破損する機会が多いので、周囲をよく整理し、風に飛ばされやすいものは片付けておく。

③ 露地栽培については、支柱やフラワーネットを点検して補強し、しっかりと固定する。直播きでまだ生育初期のものは、べたがけ資材等で茎葉を押さえる。その際、べたがけ資材は風にあおられないようにしっかりと固定する。また、ほ場が冠水しないよう、排水路を整備する。

④ 果菜類では、根痛みによる草勢低下を防ぐため、摘果や若どりにより着果負担を軽減する。

#### （2）通過後

① 滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努める。

② 作物への泥のはね上がりが多い場合は、動力噴霧器等を使って洗い流す。

③ 液肥（500～1,000倍）の施用や葉面散布を行い、草勢の早期回復を図る。

④ 雨風による傷から病原菌が侵入しやすいので、こまめに観察し必要に応じて発生初期に防除する。

⑤ 収穫可能なものは速やかに収穫する。また、播種直後で発芽不良の場合は、直ちに播き直す。